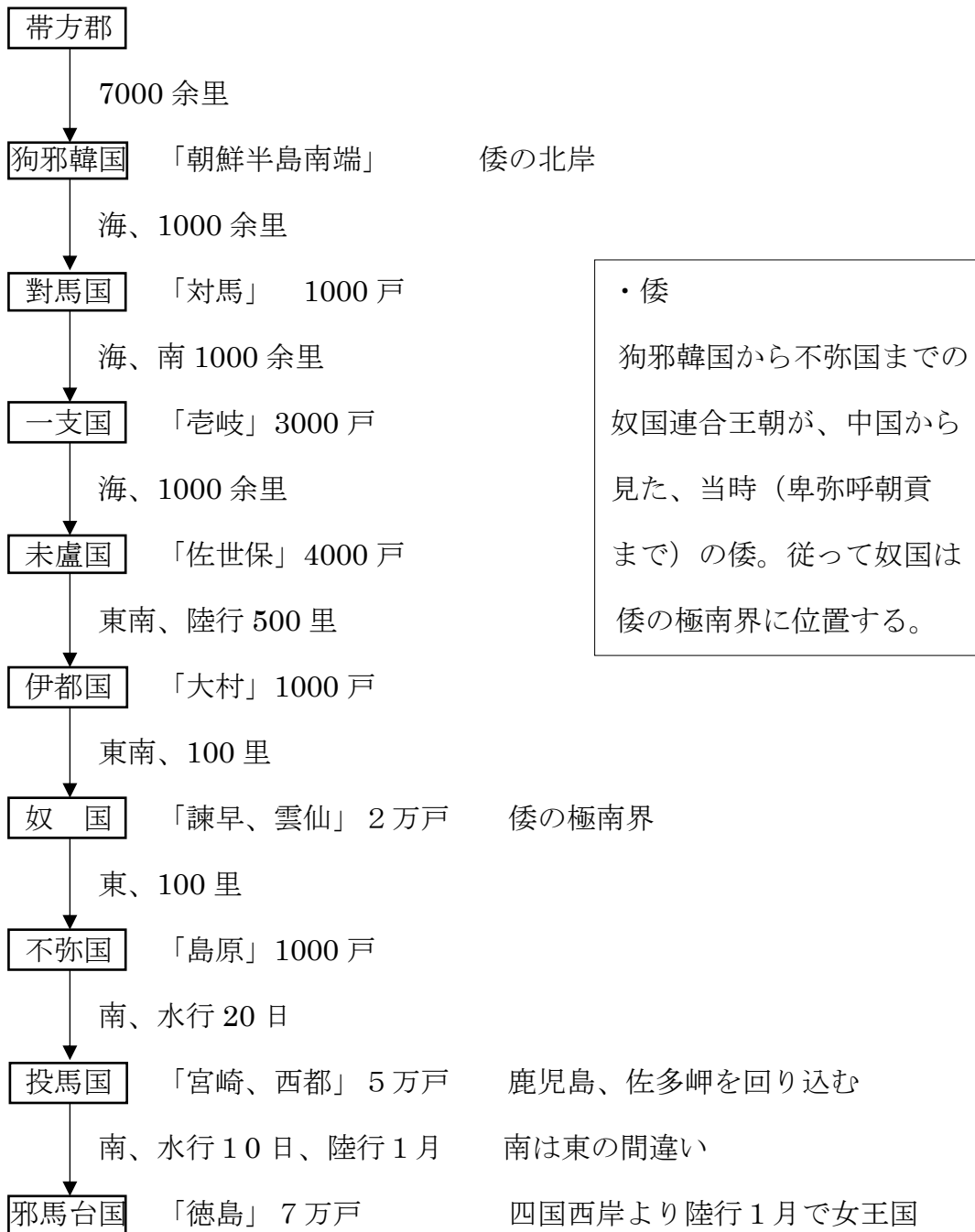


邪馬台国と倭の五王

林 ひろゆき

邪馬台国までの道程

これまでの説や比定地にとらわれず、女王国までの道程を考える。



- ・ 狗奴国（原始神道系ヤマトの国）

魏志倭人伝で、狗奴国は女王国の南と記されているが、南は東の間違いなので、後漢書の「東、海渡り 1000 余里」と一致する。

- ・ 北の境界の国々

北は西となり、帰り道の四国から南九州沿岸の奴国までの国々となる。

- ・ 関門海峡

北九州には、邪馬台国と敵対する原始神道系のツクシの国があり、航路の確保が出来なかったと推測する。

私見による仮説

- ・ 奴国連合王朝

AD 57 年に朝貢、光武帝より漢委奴国王の印を賜る。渡来人の国で、韓半島南部から奴国（諫早、雲仙）までの、奴国王による支配地域で、中国から見た当時の倭。倭国大乱（奴国と邪馬台国との戦い）で滅亡する。

- ・ 邪馬台国連合王朝

邪馬台国（女王の都）は、徳島にあったと考える。魏志倭人伝に 7 万戸と有るので、四国の半分くらいの面積があったと考える。卑弥呼の時代は、四国、南九州、及び旧奴国連合を支配する。

韓半島南部（鉄）を支配下に置いた事により、半島と関わり中国へ朝貢する。

中国から見た卑弥呼の時代の倭。

- ・伊都国

一大卒を置き、旧奴国連合の監視、交易に伴う税の徴収及び敵対する原始神道系の、ツクシの国に対する前線基地の役割を果たしたと考える。

- ・原始神道系連立王朝

ツクシ、イズモ、ヤマト、関東、その他の国々の連立王朝で、交易により繋がる古代王朝であったが、邪馬台国が台頭して軍事的繋がりを増す。元々は邪馬台国も、古代連立王朝の構成国だったと考える。

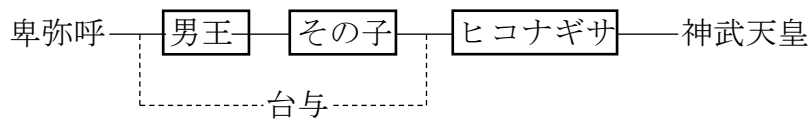
- ・神武天皇の実存年代

「新唐書」彦瀲（ヒコナギサ）は、天之御中主より32世その子神武は、大和州に移り統治。

「南齊書」343年、倭王に武の号を叙す。

上記より、天之御中主より33世で、343年に武の号を受けた倭王を神武天皇に比定する。

- ・日向三代



「男王」

329年卑弥呼の跡を継ぎ、邪馬台国の王となるが、国乱れすぐ退位、日向（投馬国）の王となり、天孫降臨神話の基になったと推測する。

「ヒコナギサ」

ヒコナギサは、312年原始神道系の王である、ウガヤフキアエズを、ツクシで討つ。ヒコナギサの時代、邪馬台国は「九州全域、四国、韓半島南部」を支配下におき、都を徳島から筑紫に移す。

ヒコナギサは邪馬台国の王で、ウガヤフキアエズは原始神道系の王なので、二人は別人と推測、記紀により合成されたと考える。

・神武東征

神武天皇は、筑紫のヒコナギサの命により東征、イズモを制圧、334年橿原のイワレヒコを討ったと考える。ナガスネヒコを討ったのは、イワレヒコであり、原始神道系の神話に神武天皇を合成したと考える。

・天照大神

天照大神は、原始神道系の神であり、原始神道系の神話に卑弥呼を合成、女神とする。神話は、基本的には原始神道系のものであり、邪馬台国と巧妙に合成されたと考える

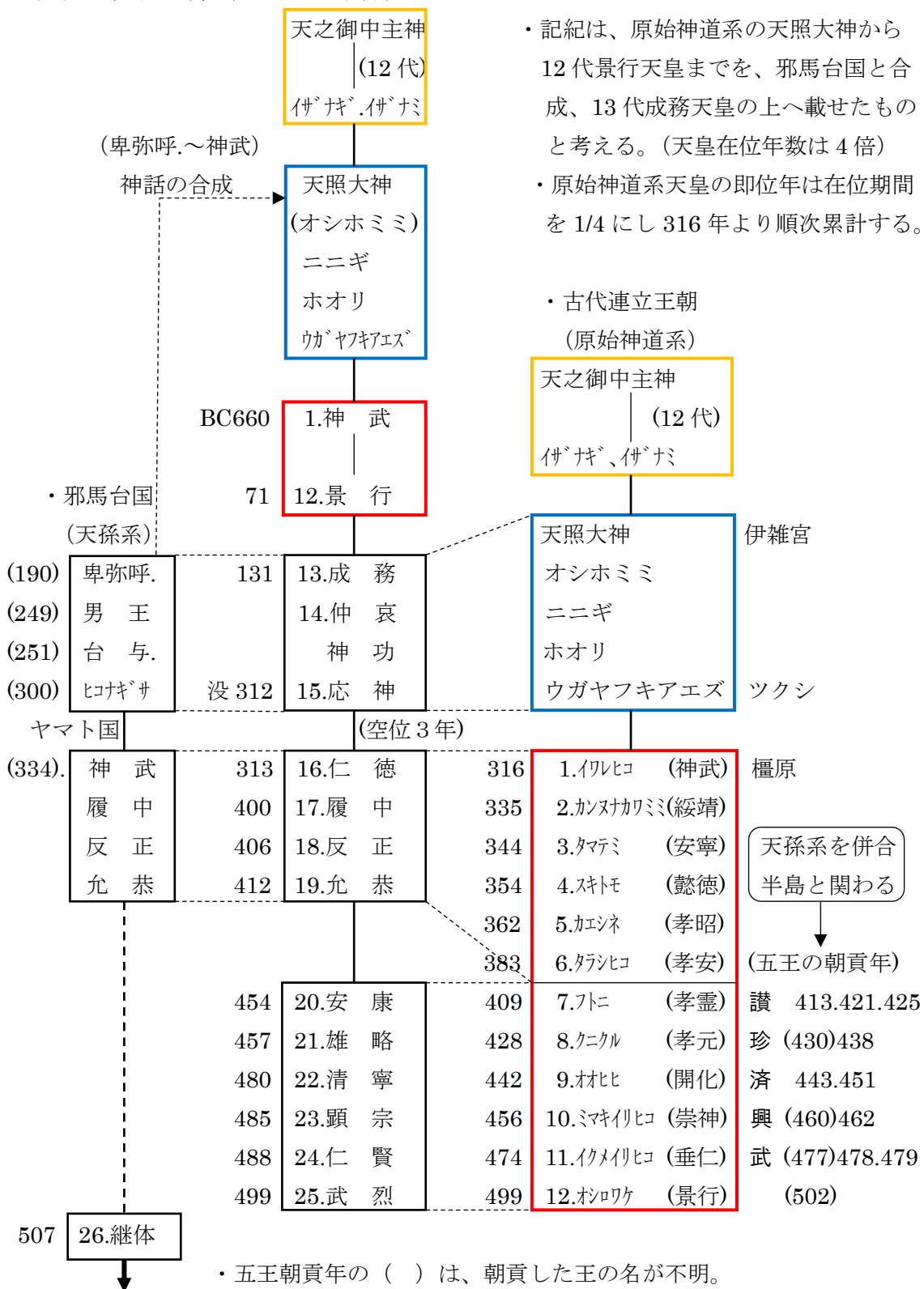
・聖徳太子

聖徳太子はヤマト王権の大王で天皇制を考案、後に摂政となったと考える。邪馬台国と原始神道系王朝との合成及び天皇制は、同族による王権争いを防止し、ヤマト王権の正統性を確立するため、セットで考案し、先代旧事本紀に、まとめたと推測する。

仮説による系譜

・() は、推定即位年

・日本書紀



・記紀は、原始神道系の天照大神から12代景行天皇までを、邪馬台国と合成、13代成務天皇の上へ載せたものとする。(天皇在位年数は4倍)

・原始神道系天皇の即位年は在位期間を1/4にし316年より順次累計する。

・古代連立王朝 (原始神道系)

BC660

・邪馬台国 (天孫系)

71

131

313

400

406

412

454

457

480

485

488

499

316

335

344

354

362

383

409

428

442

456

474

499

伊雑宮

ツクシ

橿原

讃 413.421.425

珍 (430)438

濟 443.451

興 (460)462

武 (477)478.479

(502)

・五王朝貢年の()は、朝貢した王の名が不明。
・(502)は国内不安定で、オシロワケが朝貢出来なかったと推測する。

倭の五王

- ・日本書紀は、原始神道系の天皇である安康天皇から武烈天皇までの在位期間を、1 / 2 とし、大悪天皇と記紀に記す。

(安康) (武烈)

日本書紀 499 - 454 = 45年

原始神道系 499 - 409 = 90年

結果、倭の五王の比定が困難となる。

- ・稲荷山古墳出土の鉄剣が、通説通り 471 年なら倭王興(ミヤケイヒコ)の年代となり都は、磯城ミズカキの宮で、シキ宮が一致する。
- ・神武天皇から景行天皇までは、2 倍暦で記された「原始神道系古代文献」の天皇在位期間を、さらに倍の 4 倍とし成務天皇の上へ移動し、王位の兄弟継承を、すべて父子継承とする事で、天皇在位年数の不整合を、調整したものと推測する。従って倭の五王の、親子関係での比定は不可能と考える。

まとめ

記紀の編纂に当たっては、古史古伝と言われる古代の文献や伝聞を元に、ヤマト王権の正統性を確立するため、編纂されたと考えます。今回の神武天皇から景行天皇の、実存年代への移動で解った事は、仁徳天皇から武烈天皇までの即位年で一致した事です。これは武烈天皇の時代に編纂された、原始神道系の古代文献があったことを意味します。その神話や系図に邪馬台国を巧妙に合成し、成務天皇の上へ移動させたと推測します。その古代文献の天皇在位期間が、

4倍だったのか、それとも2倍暦で書かれていたものを、在位期間だけ更に倍の4倍とし、成務天皇の上へ移動させたかの、どちらかと考えます。どちらにしても在位期間は、その時点で正確に把握されていて、後世の人が復元出来るように、要点となる年は動かさず編纂したと考えます。

偽書と言われている古代文献は多くありますが、偽書と片付けるのではなく、ヤマト王権と逆の立場で書かれた、原始神道系の古代文献も、研究検証する事が重要と考えます。たとえ偽書であったとしても、元となった物があり、その中にこそ真実が隠れていると考えるからです。